

1. 実践単元

単元：「ぼうグラフと表」

目標：身の回りにある事象について、観点を決めて資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり、読み取ったりすることができるようにする。

2. 活動の実際

本時は、「ぼうグラフと表」の単元のまとめとして位置づけた。既習事項を活用して、自分たちでテーマを設定してアンケートを実施し、集計しグラフに表すことを行った。

(1) 方法

どのようなことが調べたいのかを全体で話し合い、自分で選択して小グループで取り組んだ。

A：好きな教科は何ですか？

B：苦手な教科は何ですか？

C：好きな遊びは何ですか？

D：好きな本は何ですか？

A、B：「3年生で初めての教科が多くなり、みんながどの教科を好きで、苦手かを知りたい。そして、自分たちの学習に生かしていきたい。」

C：「学年体育や学級遊びに生かしたい。」

D：「1学期に行われる『ブックフェスティバル』に生かしていきたい。」

という願いをもって、学年にアンケートを実施した。アンケート用紙の作成、各学級へのお願い、回収までを役割分担して行った。

(2) 活動

①アンケート作成

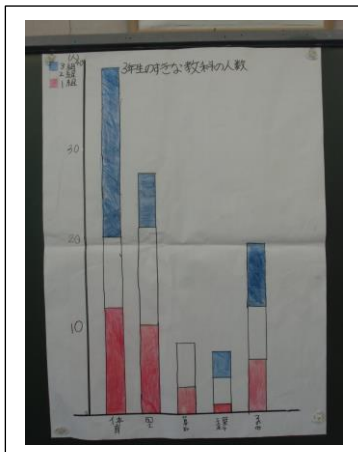
②アンケート結果を表にまとめる。

③適した「ぼうグラフ」を作成。

④考察

(3) 活動の様子

A グループ「好きな教科はなんですか？」



体育・図工が多いだろうと予想を立てていた。

学年としての結果を分かりやすく表すことが大切だと考え、棒グラフの形を話し合っていた。

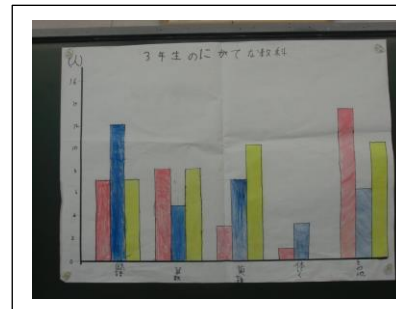
結果の人数が大きくなるので、ひとメモリがいくつになるのかを話し合っ

めることに時間がかかっていた。

ひとマス1人になるとマス目が足りない。大きくすると差が小さくて比べられないなど、「どうしよう？」「全部でこれだけいるから、これだよ。」など自分たちで考えながら作成した。



B グループ「苦手な教科は何ですか？」



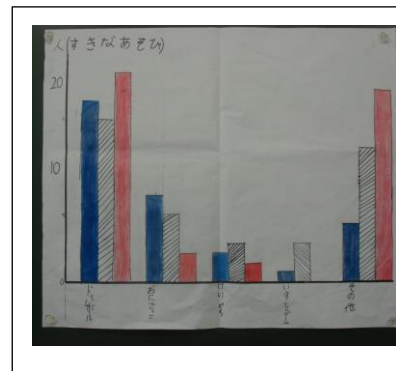
苦手な教科のグループは、集計にとっても時間がかかった。種類別、読んだらチェックするなど、何度も行い、集計があったときには、「やったー！」と歓声が上

がった。

集計結果のグラフを作成するときには、ひとメモリを表を見ながらどうすると見やすくなるのかをよく考えて作成した。



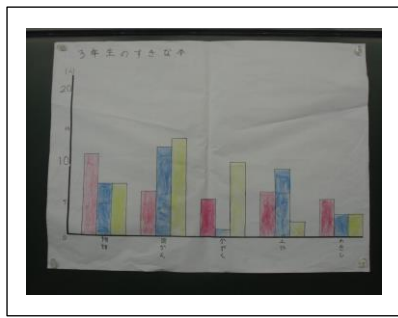
C グループ「好きな遊びは何ですか？」



アンケートを取るにあたり、「遊びの選択肢を付けた方がよいのではないか？」「自由に書けなくなるから、選択肢はいらない。」など、話し合いを行っていた。みんなの好きなものはドッジボール、けいどろに集まるだろうと予想する子も多く、選択肢なしで行った。この話し合いは、とても白熱していた。選択肢ないことで、その他が多くなってしまった。

結果を棒グラフに表し、ドッジボールの人気のすごさを実感していた。

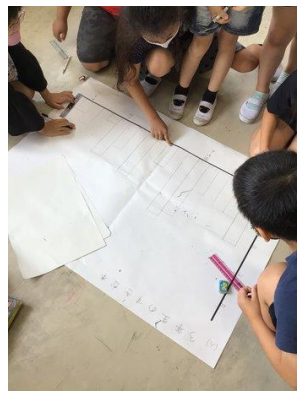
D：好きな本は何ですか？



アンケートを取るにあたり、「分類別にするか」「普段から3年生がよく借りる種類にするか」を話し合っ

て決めた。アンケートの集計も、その結果を棒グラフにかくのも、みんなで意見を出し合い、取り組む姿があった。

「こうするといいよ。」
「私は、ここをやる。」など役割分担をしながら取り組んでいた。とてもスムーズに初めから、グラフ作成まで行い、1番早く完成させることができた。



(4) 活動の結果からの考察

それぞれの集計結果、棒グラフを見て、分かることを見つけ、考えを出し合った。

- ・3年生で一番人気の教科は体育である。(学年全体の集計として見ている。)
- ・「科学の本」は、3組では一番人気だけれど、2組ではあまり人気ではないことが分かる。(クラスごとに比べている)
- ・1組の苦手な教科は、算数が多いけれど、好きな教科が算数の人もいる。(2つのグラフを比べている)

など、グラフの人数の読み取り、わかることを出し合った。

また、この棒グラフの読み取りから、実際の学校生活に生かすことができた。好きな教科では、体育の時間、十分に活動できるように準備や体操など、協力して取り組もうと体育係が話し合い活動した。また、苦手な教科だと感じている国語は、学び合いの場を多く設けるようにしアドバイスや発表の回数をふやした。好きな遊びでは、10月実施の学年体育での活動にドッジボールを取りれたり、学級遊びで、色々なドッジボールを考えたりして取り組んだ。好きな本では、ブックフェスティバルに向けて、おすすめ本を紹介したり、読み聞かせをしたりした。

このように、実際の学校生活に生かすことで、統計的な見方の良さを実感することができた。

4. まとめ

自分たちで、テーマを考え、アンケートの実施、表・グラフの作成までを行ったことで、意欲的にどの子も取り組むことができた。

また、グループ活動を取り入れたことにより、みんなで考え、みんなで分かり、みんなが分かる学習になり、学び合いが行われた。

資料を分類整理する目的や観点を明らかにすることや資料の特徴や傾向を読み取ることは、統計的に考えたり、処理したりする能力を伸ばすことにつながる。

本年度の「全国学力・学習状況調査」の「3 統計的な問題解決の方法を用いた考察 (図書アンケート)」に出題されたように、統計的な問題解決の方法の理解が大切になっていることが分かる。3年生の段階では、棒グラフから数量を読み取り、項目間の関係が分かることが大切である。そのために、1メモリの単位や、見やすく分かりやすい棒グラフの作成を大切にして、本活動を行った。

児童からは、「学年のことがよく分かったし、クラスごとにそれぞれ特徴があることが分かった。」「棒グラフに表すことで、比べやすく、わかりやすいということが分かった。」「もっと、色々なことを調べてみたいと思った。」などの感想がでてきた。

このように、身の回りにある事象について考えることで、児童にとってより算数的活動のよさ、そして、そこから算数の魅力が伝わっていくのだと実感した。